

中日ニュース

シネスコ版

高知新 No. 286 本編同い

新愛媛 No. 114

甲子新 No. 127

No. 451 37.9. 7

道新 No. 201 初祝 - 札幌 札幌 石狩 旭川 (本編トッパ追加)

一、よみがえる「日本の翼」

— 名古屋

戦后十七年の空白をのりこえて国産機一号「YS11」が、完成八月三十日名古屋空港で初の試験飛行を行いました。かつては「零戦」をつくった頭脳と技術が苦節十七年ついに実を結んだのです。この「YS11」は二百米の滑走路ですみ、片方のエンジンで安全に離着陸出来る優秀なもの一機四億円という尅大な製作費だけが唯一の難点です。

一、金メダルはもらっ たけれど

— ジャカルタ・東京

開幕前から入国問題で紛糾の続いたアジア大会も我国は陸上や水上で合計七十三コのコメダルを獲得して九月四日幕を閉じました。然し競技開催に際して重量挙げは事態を憂慮して出場を中止、又大会名称も未だに決らないという有様、そして二年後の東京オリンピックを控えて国内では、国会で大会紛糾の原因を追求するなど大会は終わったものの今後に大きな問題を残しているのです。

アイモ風土記

一、溶岩の島

— 三宅島

二十五年ぶりに大噴火した三宅島は東京から南へ百八十キロの太平洋の真只中に浮ぶ島です。噴火の日から一週間たつても、島の東海岸へ流れこんだ溶岩はくすぶりつづけ激しく白煙をあげています。住民たちは西海岸に避難して部落ごとにも集団生活を送っています。しかし地震が日夜間断なく続き船の着くたびに島外避難者がたえません。八月三十一日にはついに老人と子供たちをまとめて千葉県館山へ疎開させることになりました。この日西海岸の砂浜に海上自衛隊の上陸用艇が到着。島のはとんどの子供たちは母親たちからひきさかれるようにして避難してゆき浜では涙の別れが繰り返りひろげられたのです。子供を疎開させたあと親たちは再び不毛の風土との闘いははじめました。この島の噴火記録は九百年前。以来十四回も爆発がにつきそのたびに手ひどい打撃をうけました。しかし先祖と同様、再び長い苦しい闘いをいどむのです。

644x

438x

118x

88x